令和８年１月１日現在の世帯数と人口

（千種区　18.18K㎡）

学区名	世帯数	人口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1　千　種	6,205	9,647	4,815	4,832	△ 5	3
2　千　石	4,356	7,044	3,519	3,525	△ 16	△ 12
3　内　山	6,149	8,371	4,465	3,906	△ 15	△ 11
4　大　和	3,755	6,764	3,374	3,390	△ 1	0
5　上　野	7,603	15,383	7,515	7,868	1	△ 12
6　高　見	7,796	13,656	6,536	7,120	23	55
7　春　岡	7,593	11,449	6,083	5,366	△ 15	△ 15
8　田　代	11,589	22,097	10,568	11,529	△ 9	△ 15
9　東　山	10,465	18,876	9,240	9,636	△ 17	△ 20
10　見　付	4,633	8,375	4,207	4,168	△ 18	△ 27
11　星ケ丘	3,615	6,811	3,016	3,795	1	0
12　自由ケ丘	3,546	6,984	3,166	3,818	0	△ 5
13　富士見台	6,443	14,691	6,650	8,041	△ 2	6
14　宮　根	3,861	7,838	3,597	4,241	△ 11	△ 14
15　千代田橋	3,752	7,975	3,710	4,265	△ 24	△ 28
千種区計	91,361	165,961	80,461	85,500	△ 108	△ 95
R7.1.1	90,194	165,724	80,354	85,370	△ 48	△ 68
対前年比	1167	237	107	130	△ 60	△ 27
名古屋市	1,196,466	2,339,485	1,148,102	1,191,383	0	△ 541
愛知県（R7.12.1）	3,416,735	7,453,361	3,712,380	3,740,981	767	△ 1,667

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出　生	死　亡	自然増減	転　入	転　出	社会増減
	86	142	△ 56	856	895	△ 39

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口（千種区）	
昭和６０年	163,762	平成１７年	153,118	最大人口	173,598（昭和50年2月1日）
平成　２年	156,478	平成２２年	160,015		
平成　７年	148,847	平成２７年	164,696	最小人口	146,727（平成11年4月1日）
平成１２年	148,537	令和　２年	165,245		

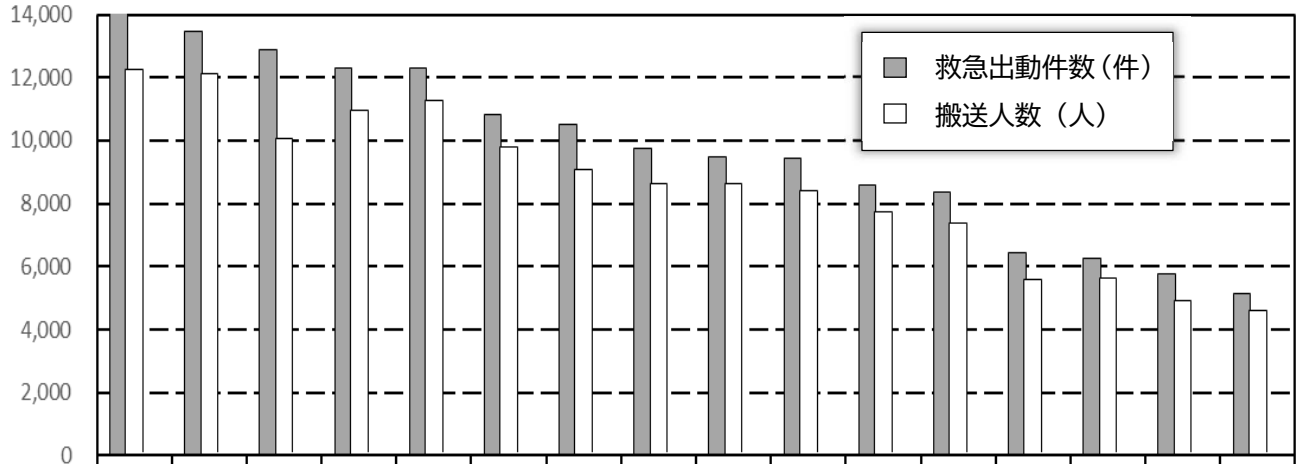
注）　学区別の世帯数と人口は、令和5年国勢調査結果を基礎とした本市独自の推計値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

統計なごやweb版　http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0-0.html

名古屋市と千種区の救急活動状況

今回は名古屋市の救急統計情報に基づいて、名古屋市と千種区の令和 5 年の救急活動状況をみていきます。

まず、名古屋市の状況からみていきます。（図１）救急出動件数が多い順に、中村区、中川区、中区と続き、千種区は 7 番目です。次に搬送人数を各区の人口毎にみてみますと、中区は約 10 人に 1 人、中村区は約 11 人に 1 人と年間で多く運ばれています。これは、繁華街やオフィス街が集中し、人流が多いため搬送人数が増えているものと思われます。名古屋市全体では約 17 人に 1 人の市民が、千種区でも約 17 人に 1 人の区民が救急車で搬送されています。



	中村	中川	中	北	緑	港	千種	守山	南	西	天白	名東	昭和	瑞穂	東	熱田
救急出動件数	14,174	13,471	12,866	12,305	12,281	10,812	10,525	9,746	9,479	9,416	8,582	8,380	6,419	6,263	5,766	5,155
搬送人数	12,269	12,144	10,042	10,946	11,265	9,801	9,061	8,620	8,610	8,416	7,721	7,373	5,583	5,650	4,938	4,587
区民利用度（何人に１人）	11	18	10	15	22	14	18	20	15	18	21	22	20	19	17	15

図１　名古屋市における救急出動件数と搬送人数（※市外のデータは含まず）

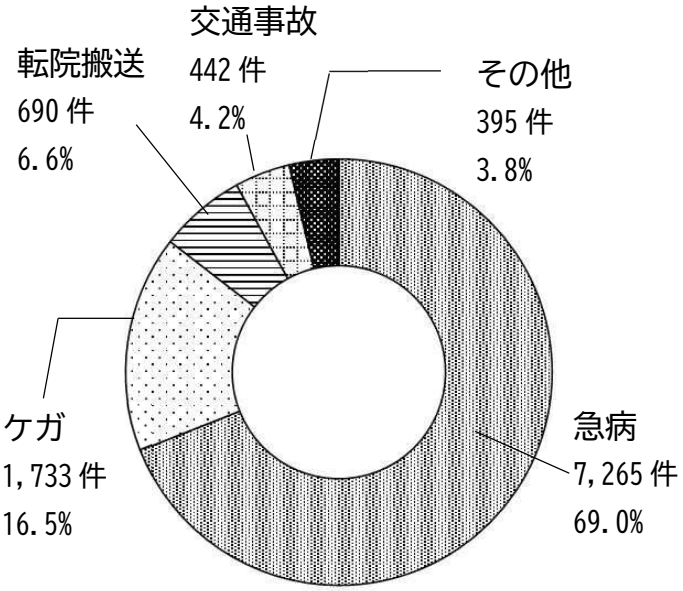


図２　千種区における救急出動件数の内訳

次に千種区の救急出動件数の内訳をみてみます。（図２）急病による出動件数が最も多く、7,265 件（69.0%）、ついで、ケガの 1,733 件（16.5%）、転院搬送の 690 件（6.6%）です。これらの順位は、名古屋市全体と同一です。令和 5 年は、猛暑による熱中症患者の増加などが救急出動件数を増加させた要因と考えられます。千種区では、1 日に約 29 件の救急出動があります。